第　39　号

県中教研 美術部会だより

発 行 日　令和6年3月
発 行 所　富山市千歳町1－5－1
富山県中学校教育研究会
編集責任者　伊勢威知郎
題　　字　金山　泰仁　先生

卒業後も美術や美術文化と豊かに関わる

主任指導主事　濱本　良子

西部地区大会の部会協議の中で、調査官が「中学校の美術で何を学びましたか」と問いかけられました。近くの人との話合いや全体での発表では、題材で行った表現活動や先生から褒められたことが、昨日のことのように詳細に語られました。また、それらが「美術科教員としての土台となっている」という言葉もあり、中学校美術の学習が卒業後の人生に大きな影響を与えたことや、先生方がこれまでに、生活の中の美術等に豊かに関わってこられたことを感じました。

美術科の目標の柱書きには、「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」が示されており、これは、美術部会の研究主題にも挙げられています。中学校学習指導要領（平成29年改訂）解説美術編の中に述べられていますが、生活や社会の中の美術や美術文化への関わり方については、例えば、「美術に専門的に関わる」「余暇に絵や陶芸を制作する」「ものを選んだり飾ったりするときに形や色彩に思い入れをもつ」「建物や街並み等の人工的な造形に心を動かす」などがあります。

中学校卒業後、高校等で芸術の学習機会がない生徒にとっては、中学校での学習が、美術について学ぶ最後の機会になることもあります。そのように考えると、中学校の美術科の学習を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力をどのように育成していくのか、授業をどのように工夫・改善していくのかを、目の前の生徒の姿を踏まえて、常に考えていく必要があるのではないでしょうか。

解説美術編には、授業改善のポイントがいくつも示されています。生徒が中学校卒業後も、先生方のように生活の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるよう、折に触れ解説を確認していきたいものです。

（西部教育事務所）

今後の中学校美術教育に向けて

部長　伊勢威知郎

今年度の富山県中学校教育課程研究大会は、コロナ禍以降初めて、以前の様な授業会場に参観者が全員入る形で行われました。

東部地区は、富山市立速星中学校で鑑賞「明日への願い『ゲルニカ』」、西部地区は、砺波市立庄西中学校で鑑賞「切り絵の世界（和の美しさ）」が実施されました。

両授業とも、東洋・西洋美術の王道を学ぶような研究大会にふさわしい、充実した授業でした。さて、今年度の研究主題は「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方･考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための指導はどうあればよいか。－美術科の特質や学習過程を踏まえたICTの効果的な活用－」です。

この文脈の中で“生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成”とあります。授業の中で先生方が､授業内容を補足する“エピソード”を生徒にどのくらい話をしているかが、授業改善のポイントやキーとなるのではないかと考えます。

「何かテレビでピカソの絵を見たことがある」

「そういえば、家族で旅行をしたときに訪れた食堂の壁に切り絵が飾ってあった」

上記の会話は、東西両研究授業の中で生徒がつぶやいていた言葉です。

生徒は現在生活している（生きている）中で多くの美術や美術文化に触れています。ただ、そのことをどれだけ意識させてあげられるか（見方・考え方）、膨らませてあげられるかが、指導内容と同等に大事になっていくのではないでしょうか。もちろん、生徒同士の学び合いやICTの力も借りながら…。

来年度も学習指導要領の内容をより一層深く理解し、生徒の実態を踏まえながら、実質的な指導を想像（イメージ）していけるよう、県内の先生方とともに研究に励んでいきたいと思います。

（富・呉羽中）

第67回中学校教育課程研究大会美術部会

東 部 地 区
富山市立速星中学校

古山泉教諭が「ゲルニカ、明日への願い」を題材に鑑賞の授業を行った。本時では、鑑賞におけるICT活用に関する研究として、クロムブックのプレゼンテーションソフトを用いて、班での意見交換を行った。三分割された作品を最初は個人で鑑賞し、描かれているモチーフや感じたことをスライドに書き込んだ。その後、グループで話し合い、作品から受ける印象や何を表現しようとしているのかをスライドにまとめ、代表者が発表した。クロムブックを使うことで、全員の意見がリアルタイムで確認できるため、他の人の意見を参考にしながら活動に取り組むことができていた。そうすることで、一人では見えてこなかった作品のイメージが見えてきていた。

部会協議①では、「作品を部分的に鑑賞し情報を絞ったことで､深く読み取ることができた」「歴史的背景の知識も大切だが、その中でいかに美術科として造形的な面に目を向けさせるかが大切ではないか」等の意見が出された。

部会協議②では、東部教育事務所の大懸謙一先生から「生徒は漠然と作品を見るだけでは何を考えたらよいのか分からないことがあるので、考える視点が必要となる」「評価に関する研究の視点として、それぞれの鑑賞の機会ごとの感想を３段階に分けて、考えの変化を見ていくことができるのではないか」等の助言をいただいた。

今後、ICTの活用を生徒の学習手段の一つとして定着させるため、デジタル・アナログの使い分けを工夫し、他の作品に関する著作権や知的財産権等に関する指導も必要であると学ぶことができた。

佐渡ありさ（富・大泉中）

西 部 地 区
砺波市立庄西中学校

河合　伊織教諭による「切り絵の世界（和の美しさ)」の授業は、切り絵の手法を用いて和の美しさを表現し、制作を通して形や色、構成を工夫し、切り絵特有の効果による魅力を味わわせる題材であった。本時ではICT機器を話合い活動に取り入れ、グループで意見交換・発表が行われた。発表者は切り取った紙とタブレット端末を使って、自身の作品のプレゼンテーションを行い、聞き手は作者の工夫点や作品のよさに着目し、メモを取りながら鑑賞していた。発表後、タブレット端末上のワークシートに思いを記入し発表者に送信することで、互いに作品への思いを深め、生徒同士の熱心にアドバイスし合う姿が見られた。また、送信された意見を大型モニターに表示することで、全体で思いを共有することができ、教師も入力内容を評価に生かすことができる利点が見られた。

部会協議①では、ICTを生かした効果的な話合いについて等の協議が行われ、ICTを利用する場面とアナログで進める場面のバランスについての意見も聞かれた。濱本良子指導主事（西部教育事務所）からは、〇ねらいに適した題材の設定〇表現と鑑賞を関連付けた指導計画〇ICT機器の効果的な活用について助言をいただいた。

部会協議②では文部科学省初等教育局教育課程課教科調査官平田朝一先生による授業力向上のための講義が行われた。自らの実践を交えた講話や学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについての説明があり、造形的な視点、指導と評価の一体化や評価のポイントについて助言を頂いた。部員からは、来年度も講義を望む声が聞かれた。

長谷川輝和（南・福野中）